

粗飼料の確保に向けて

乾乳牛管理の取り組みを効果的に行うためには、粗飼料の品質とその安定が重要となります。嗜好性の良い物を給与し、粗飼料分析を行って成分を確認して利用しましょう。また、観察により実際に十分に食い込めているか確認しましょう。

1 嗜好性

乾物摂取量を多くしてルーメンの充満度を保つためには、嗜好性と食べやすい給与が重要です。

○水分

低水分サイレージが嗜好性が良く乾乳牛への給与に適しています。高水分サイレージの場合、嗜好性が劣り乾物摂取量が落ちる場合があります。低水分サイレージや乾草が利用できる場合は、併給して乾物摂取量が落ちないようにします。

○糞尿の施用

糞尿施用も施用量や時期によっては嗜好性を落とします。乾乳専用草地を準備しその草地は糞尿施用をひかえるといった対策も効果的です（図1）。

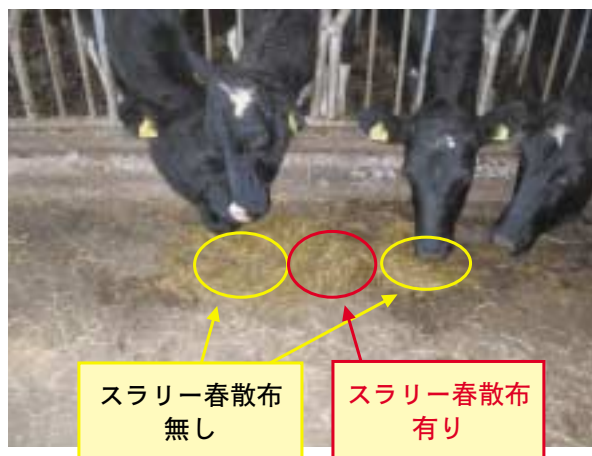


図1 スラリー春散布草地は嗜好性が劣る

2 栄養成分

栄養設計を行う上で、草地の植生や番草によってはトラブルの起こりやすい粗飼料もあります。

○イネ科単播一番草

マメ科牧草はカルシウム含量が高く、混播草地の場合、選び食いにより設計以上のカルシウムを摂取してしまいトラブルが起こる場合があります。イネ科単播一番草の成分が安定して安全です。（図2）



図2 混播草や2番草を乾乳後期牛に給与した場合のトラブル

2番草も同様にマメ科牧草割合が多いため避けます。

○粗飼料分析結果

粗飼料のカルシウム含量が高い場合、コントロールが難しい場合があるので、極端に高い物（0.4%以上）は避けます。

また、その他のミネラルやタンパク質も影響するため、使用する粗飼料は粗飼料分析を行い、飼料設計に基づき濃厚飼料を併給することが大切です。

3 安定性

上記の条件を満たした粗飼料が、一定期間安定的に確保できると、飼料の切り変わり時に起こるトラブルなどがなく、安定的に取り組みの効果が得られます。

バンカーサイロやスタックサイロの場合、同じサイロでも、草地の切り変わりで突然成分が変動しトラブルが起こる場合があるので注意が必要です。

乾乳専用草を準備して、ロールを乾乳舎の近くに別積みしている農場や、規模の大きい牧場では専用のスタックサイロを作っている農場もあります（図3、図4）。



図3 乾乳用ロールの準備



図4 乾乳用スタックサイロ

4 食べやすい給与

乾物摂取量を多くするためには、これらの牧草を食べやすく給与することが重要です。ロールの場合はカットしたり、ほぐして広げたりして、食べやすくして給与することで採食量が増えます。（図5）

草架での給与の場合、縦置き（図6）の方が食べやすく、採食量が低下しにくいです。草架の数も、飼養頭数が多い場合は食べ負が起らないように、複数個用意しましょう。



図5 ロールを広げて給与



ほどけやすく、食べやすい
→ 採食量が多い



固い、届きづらい
→ 食べにくい

図6 ロールの給与方法